

改善事例は知恵とアイデアの固まり “マネして改善”“楽にいい仕事”をキャッチフレーズに やりがいと生き甲斐のある職場に

改善はカンタン、誰でもいつでもすぐできる。仕事はちょっと工夫→改善するだけで楽になる、早くなる、間違わない、力を使わなくてすむなどいい効果がある。改善は難しくないのだけれど、初めて“改善活動”と聞くとたいへん難しく感じる。改善活動に限らず、何でも初めてのことは難しく感じる、身構えてしまう。あなたのそばにいる“改善名人”も、最初から名人ではなかったし、いきなり改善ができるようになったわけではない。それなりに試行錯誤や創意と工夫、見て真似て努力をし、経験を積んでいるうちに力が付いて、ごく当たり前のようにカンタンにできるようになった。つまり、誰でも改善はできる、慣れれば誰でも改善名人になれる。

何しろ、改善は独創的でなくていい、高邁な理論の裏づけや理屈はいらない。計画的でなくてもいい、行き当たりばったりでOK。ものまねもOK、二番煎じはもちろん三番煎じでも何か効果があればそれでOK。わからないときや出来ない人は先輩や仲間の改善をマネすればいい。

仲間の発想や習慣に新鮮さを感じなくなったときや、アイデアが浮かばなくなったら改善事例を見よう。特に他社・異業種の改善には日頃の自分の職場の常識や判断基準にはない発想や着眼、アッと驚くアイデアもある。賢い人は改善事例に共通点やキーワードを見つける。既成概念から脱け出せない人は事例を見ても違いを見つけるだけで他人の知恵を活かせない。俗に、“仲間の常識は世間では非常識”という例えもある。既成概念を取り払って他社・異業種の改善から大いに学ぼう。

本書には〔365件の改善〕をキーワードで分類して月別に掲載した。1件3分で読める、イラストも豊富だからわかりやすい、1日1件読むだけで1年後には“365のノウハウ”が身につく。頭

の中に豊富な改善ノウハウ情報があれば誰でも“改善名人”になれる。

改善活動は自分のため、そして自己育成だ。言われたこと・決められたことをそのとおりにやるだけの受身の仕事は面白くないし進歩も変化もない、仕事に達成感や充実感を味わえない。自ら考え自ら行動する攻めの仕事は毎日が楽しくなる。仕事に達成感を覚え、充実感のある意欲的な毎日になる。人は誰しも存在を認められたいという潜在的な願望がある。改善活動が創造的で意欲的、積極的な人間を作り、存在感のある人間を育てる、頼れる人を育てる。

毎日の仕事は特別なことが起こらない限り順調に“昨日の続き”で平穩無事で終わる。少し面倒でも、多少の不便や不都合があっても、慣れていくから体が自然に動く、不便や負担は感じなくなっている。これでは自分が進歩しない。“慣れは改善の敵”これからは視点と基準を変えて仕事を見直し、合理的で意欲的な仕事をしよう。いい仕事でいいサービス、充実感のある仕事と生きがいのある毎日にしよう。

〈毎月のテーマ〉

- 1月 やめた
- 2月 移した
- 3月 代えた
- 4月 替えた
- 5月 変えた
- 6月 再利用
- 7月 表示
- 8月 固定
- 9月 見える
- 10月 分けた
- 11月 置いた
- 12月 安全